房日新聞

2020年（令和２年）６月５日（金曜日）

心

「ありがとう」は「有り難い」

北京オリンピックで金メダルを手にした日本女子ソフトボールチームを陰で支えたメンタルトレーニングの第一人者・西田文郎（にしだ　ふみお）氏は、「感謝」を能力開発に活用する独自の理論で知られており、「何事にもありがたいと思えば感情脳が『快』になり、落ち着いた気持ちでストレス要因を消去できる。感謝することでエネルギーが強まり、人間は力を発揮します」と述べています（『毎日新聞』平成二十二年二月十六日付夕刊）。

道徳で人と社会を幸せに

「ありがとう」は「有ることが難（かた）い」、つまり有ってほしいと望んでも有ることは稀（まれ）で貴重なことを示し、この「稀なこと」を喜び尊ぶ感情から、感謝を表す言葉として使われるようになったといわれます。私たちが「ありがとう」という言葉を口にするときは、心の中で相手の存在や相手がしてくれた行為を「有り難い」ものと認め、その貴重さに感謝してこそ、大きなエネルギーが生まれるのです。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

2020年（令和２年）６月12日（金曜日）

心

すばらしい失敗

子供が何かに失敗したとき、親はその間違いを正そうとするあまり、状況を十分に把握することや子供の気持ちを察することなく、すぐに叱（しか）ったり、安易に手助けをしたりしてしまうことがあります。

子供が何かを試みて、課題を乗り越えようとしたときの失敗は「すばらしい失敗」なのです。だからこそ、肯定的な言葉をかけることが大切です。その失敗の中にも、わずかにでも成長している部分があるかもしれません。それを見逃さないためにも、親は子供を見つめる確かな目を養っておきたいものです。

道徳で人と社会を幸せに

子供は、たとえ些細（ささい）なことでも共感され、努力が認められれば、新たな意欲が湧（わ）いてくることでしょう。そうなってこそ、その「失敗体験」が生きてくるのではないでしょうか。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

2020年（令和２年）６月26日（金曜日）

心

自分自身を高める逆転の発想

私たちは、自分にとって都合の悪いことが起こると、その原因を他人のせいにしがちです。そして、相手を心の中で責め、不平や不満を訴えます。しかし「相手は自分を映す鏡」ととらえると、自分の不十分さや未熟さ、反省すべき点などを、誰よりもよく教えてくれる存在だと受けとめることができるのではないでしょうか。

私たちは物事が順調に進んでいるとき、自分の行動や考えを見直したり、反省したりすることはありません。ですから悩みや葛藤（かっとう）が生じたときこそ、自分を省みるチャンスであり、自分の成長のための新たな一歩を踏み出すチャンスなのです。

道徳で人と社会を幸せに

「苦手な人は、自分の心を磨き高めてくれる恩人である」という考え方は、私たちの人間関係をよりいっそう豊かにし、自分自身を高める「逆転の発想」といえるでしょう。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

2020年（令和２年）７月３日（金曜日）

窓が一枚割れていると……

使われなくなったビルの窓が一枚割れていると、ほかの窓を割ることにも抵抗が薄くなるものです。また、これが補修されないままだと、「このビルは誰からも管理されていない」というサインになって、自然と非行少年たちが集まって犯罪の温床となり、その地域で犯罪が増加するのです。これを社会学では「破（わ）れ窓理論」といって、犯罪防止のためには、最初の小さなきっかけをつくらないことが大切であると考えます。

道徳で人と社会を幸せに

きれいに整備された道にゴミを捨てることには心理的な抵抗があっても、少しゴミが目に付くようになると、何気なく捨ててしまう人が増えてくるでしょう。こうして少しずつゴミは増えていき、ゴミがたまればたまるほど心理的抵抗は弱まって、その結果、ゴミの山が生まれます。〝皆がやっていることだし、自分一人ぐらい大丈夫だろう〟という気持ちが、大きな問題を生むことになるのです。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から２日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

2020年（令和２年）７月10日（金曜日）

人生は自分の心がつくっている

ブッダの言葉に「ものごとは心にもとづき、心を主（あるじ）とし、心によってつくり出される。もし清らかな心で話したり行なったりするならば、福楽はその人につき従う」（『ブッダの真理のことば　感興のことば』岩波文庫）とあります。

私たちが日常に経験する不愉快な思いは、自分の考え方や感じ方、あるいはそのときの気分から生まれるものであり、出会う相手や出来事そのものから生まれてくるわけではありません。日々の生活の中で、何を大切に思い、何に心を動かし、どのように判断するか。それらはすべて、自分の心が決めているのではないでしょうか。

道徳で人と社会を幸せに

人間関係における悩みや不平・不満も、実は自分の心がつくり出していると考えてみると、その悩みから抜け出す糸口がつかめるかもしれません。自分の心を見つめ、みずからを深く省みることが、新たな自分を築く第一歩となります。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から２日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

2020年（令和２年）７月17日（金曜日）

悲しむ心に関わるとき

上智大学グリーフケア研究所の高木慶子（たかきよしこ）教授は、「悲しむ心に関わろうとするならば、真っ先に考えなければならないのはケアのノウハウではなく、自分が関わろうとしている相手が何を必要としているかということでしょう。（中略）苦しんでいる人の力になりたいと思ったときは、『力になりますよ』と一方的に相手の胸の内に飛び込んでいくのではなく、『あなたの悲しみに寄り添うことを許していただけますか？』と、最初におことわりしたほうがいいでしょう」（『悲しんでいい』ＮＨＫ出版新書）と述べています。

道徳で人と社会を幸せに

人が深い苦悩のただ中にあるとき、不用意な助言や励ましは、かえって相手の心を傷つけるものです。必要なことは、何より相手の立場に立って考え、その発する言葉とその元にある心の声に、謙虚に耳を傾けることなのでしょう。また、そうした姿勢で人と関わっていく中で、自分自身の心も磨かれていくのです。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から２日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

房日新聞

2020年（令和２年）７月24日（金曜日）

心

親の姿の奥にある心を知る

親と子の関わりの中では、時に子の立場から親の言葉や行動を批判したくなることがあるかもしれません。

親といえども欠点や短所、弱点を持つ人間ですから、失敗や間違いはあります。私たちはそうした目に映る形にとらわれ、その奥にある親心には気づきにくいものです。まして親が元気に暮らしているときは、親の尊さ自体にも、なかなか気づかないのではないでしょうか。

親は、常に子供の先行きを心配しています。子の幸せを願う親心を知り、親の心の尊さを理解するとき、私たちは体の中に温かい力が湧（わ）き起こるのを感じます。そうした実感は、人生を送るうえで、私たちの心の大きな支えになるに違いありません。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から２日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2020年（令和２年）７月31日（金曜日）

心

「つながり」の再構築

かつての日本の地域社会では、自分の子である、なしに関わらず、子供たちが悪いことをすれば大人たちは必ず注意をし、危険がないように見守るという、地域の連帯感や教育力がありました。こうした地域の「つながり」を取り戻すには、「自分や家族が幸せであればよい」といった狭い考えから抜け出して、「地域の人たちと共に、安心して暮らせる社会をつくる」という意識を培（つちか）うことが求められます。

そのためには、地域の人の顔が見えて安心できる、お互いに助け合える社会をつくることです。まず、朝夕の挨拶や声かけ、清掃といった、身近にできることを行ってみませんか。こうした行為を積み重ねていくと、人と人との「つながり」は必ず生まれてくるものです。それが地域の子供たちを見守り、育てることにもつながっていくのではないでしょうか。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から２日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155